

Global and Innovation Gateway for All

GIGA 通信

-児童生徒 1 人 1 台端末の日常的な活用に向けて-

発行元
佐野市教育センター
 佐野市上羽田町 1134 番地 1
 電話 20-3108
 20-3048(相談専用)

今年度も残り 3 週間となりました。卒業や進級に向けた準備でお忙しいなか、各学校におかれましては、各種コンピュータシステムの年度更新の作業を進めていただき、ありがとうございます。また今年度も、ICT 活用に関する各種研修に多くの御参加をいただき、併せて感謝申し上げます。研修後のアンケートで先生方からいただいた御意見・御要望を参考に、次年度の研修内容の工夫改善を図ってまいりたいと思います。

さて、今回の GIGA 通信では、植野小学校が足利市の梁田小学校と行った交流授業の紹介と過日実施した「出席停止等の児童生徒へ行ったオンライン学習についての実態調査」の結果についてのお知らせをいたします。

『Google Meet を活用して英語で楽しく交流
～5年生外国語科での実践例～』 (植野小)

今回の交流授業は、足利市教育委員会から提案いただいたことをきっかけに実現したものです。植野小、梁田小ともに、市教委指定の「学習指導(英語)研究推進校」、「英会話学習モデル校」として、英語の学習指導研究を進めてきましたが、子供たちの姿から研究の成果を改めて実感した授業でした。



5 年 1 組担任の先生と A L T の先生

本時は以下のような流れで進められました。

1. 本時の学習課題、めあての確認
【めあて】
佐野観光大使として佐野のみりよくを伝えよう。
2. 2 校の担任と A L T が、英語でそれぞれの学校の紹介や自己紹介をする。(Google Meet)
3. グループになり、互いの市のおすすめの食べ物や場所などを 1 人ずつ英語で紹介する。(Google Meet)
※相手のグループを変えて、この学習活動を 3 回繰り返す。
4. 学習のまとめと振り返りをする。



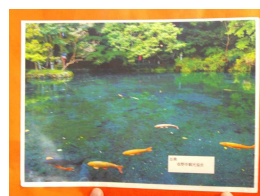
梁田小の先生と学校の紹介をし合う植野小の先生

◇事前の準備は 2 回実施

足利市でも佐野市同様に Google for Education を活用していることから、1 人 1 台端末の Google Meet を活用して交流を行いました。また、2 月 20 日の授業の事前準備として、1 月末に双方の市教委担当者と担任の先生による打合せを、2 月上旬に Google Meet の接続テストを実施しました。接続テストの際には、2 校の子供たちも互いにあいさつを交わすなど、顔合わせを行った上で、授業当日を迎えました。

◇他校の友達との交流を通して、自分自身の成長を再確認

今回、交流授業を行った植野小の 5 年 1 組と梁田小の 5 年生の児童数は 30 名程度とほぼ同じこともあり、学習活動 3 では 5 名程度のグループごとに交流しました。グループごとの活動では、1 人ずつ自己紹介を行ったあと、「いもフライ」、「ラーメン」、「出流原弁財池」、「さのまる」など、それぞれの児童おすすめの佐野の食べ物や場所などを英語で紹介しました。なるべく多くの友達と触れ合うことができよう、グループごとの交流は、相手グループを毎回変えて 3 回行いました。児童たちは、事前に準備した写真やイラストを相手に見せながら、楽しそうに英語で紹介をしていました。



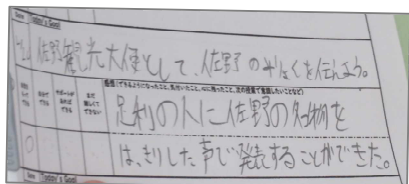
1 回目の交流後、先生は活動を止めて、児童に自分の発表の振り返りを促しました。ある児童からの「相手の発表に対して、どのようなリアクションをしたらよいか。」という質問もあり、担任の先生と ALT 先生はここで改めて、声の大きさや表情、リアクションなど英会話を円滑に進めるためのポイントを確認しました。



先生方の助言を受け、2 回目以降の交流はより活発に行われました。交流の回を増すごとに、大きな声で自信をもって英語を話したり、相手の発表に対して好意的なリアクションや拍手をしたりする児童の姿が多くなり、余剰時間での各グループでのフリートークもはずんでいました。



授業を参観した佐野市教育委員会の担当指導主事は、「2 校の児童がとても楽しそうに英語で交流していました。同学年の他市の友達との交流がとてもよい刺激となり、相乗効果によって学習意欲が高まり、より相手意識をもって伝えようとする様子が見られました。一人一人の児童が『自分の伝えたいことを英語で話せた。相手が聞いてくれた。』という達成感を感じるとともに、自分の成長を確認できたのではないかと思います。」と話されていました。



『「出席停止等の児童生徒へ行ったオンライン学習についての実態調査」の結果について』

2 月に実施した「出席停止等の児童生徒へ行ったオンライン学習についての実態調査」では、お忙しいところ御回答いただき、ありがとうございます。調査の結果、不登校や病気療養、感染症による

出席停止の児童生徒に対し、また学級・学年閉鎖時に、多くの学校が 1 人 1 台端末を積極的に活用していることが分かりました。今後も、状況や必要に応じて、学校で学びたくても学べない児童生徒への学びの保障に 1 人 1 台端末を御活用いただきますようお願いいたします。

◆不登校児童生徒への対応について

(事例あり：2 1 校 / 2 4 校)

- ・授業配信を行った 1 1 校
- ・課題のやりとりを行った 1 3 校
- ・オンラインドリルを行った 1 2 校
- ・Meet でのやりとりを行った 1 1 校

◆病気療養中の児童生徒への対応について

(事例あり：1 2 校 / 2 4 校)

- ・授業配信を行った 7 校
- ・課題のやりとりを行った 7 校
- ・オンラインドリルを行った 6 校
- ・Meet でのやりとりを行った 6 校

◆感染症による出席停止の児童生徒への対応について

(事例あり：2 4 校 / 2 4 校)

- ・授業配信を行った 1 8 校
- ・課題のやりとりを行った 1 8 校
- ・オンラインドリルを行った 1 7 校
- ・Meet でのやりとりを行った 1 7 校

◆感染症による学級・学年閉鎖時の対応について

(事例あり：2 2 校 / 2 4 校)

- ・授業配信を行った 7 校
- ・課題のやりとりを行った 1 7 校
- ・オンラインドリルを行った 1 8 校
- ・Meet でのやりとりを行った 1 7 校



【アクティヴ教室にて】

「6 年生ありがとうの会」に参加する児童 (左) と「ビスケット」を操作する児童 (右)